

# LOCAL GOOD（地域×ICT）プロジェクト事業について

LOCAL GOOD（地域×ICT）プロジェクト実行委員会

## (1)共働のきっかけ・必要性

弊NPOにはネットを活用した地域活動を行ってきた実績と課題の投稿等、様々な方を巻き込む仕掛けが既にあります。

### ①ネットを活用した地域活動の実績

#### ・天神大名WiFi化協議会(2008年)

ITコミュニティの力で福岡をより住みやすく、より楽しくしたい「AIP」の理念と、日本でWiFiデンシティ（密集地）都市をITコミュニティの力を借りて作りたいFON JAPANの思いが重なり、日本で初めて、「街をまるごとWiFi化」するプロジェクトが、ITコミュニティとNPO主導で実施しました。

#### ・大名なう(2009年)

天神・大名WiFi化プロジェクトでつながった商店街の皆さんと、ITを使って大名地域をもっと盛り上げたい、お客さんに来てほしい、ということで「天神・大名WiFi化プロジェクト」名義で始まったプロジェクトです。その頃日本でブレイクしはじめたTwitterを使って、街の情報を発信すれば、IT利用に興味が無い商店街の方も、気軽に使えるのではないかと、ということで、大名のお店に「#daimyo」というハッシュタグを使ってTwitterで呟いてもらうプロジェクトを開始しました。多くの参加店が、直接的な売上げの向上のみならず、新規顧客の獲得、参加店の間のコミュニティ組成による、新規イベント発生などの効果を与えることができました。

### ②課題の投稿等、様々な方を巻き込む仕掛け

#### ・LOCAL GOOD FUKUOKA(2015年)

税収が減り、社会コストが増える中、公益を担保していくためには、地域に住み暮らす市民や企業が、地域のことに関心を持ち、それぞれができる範囲で時間・知恵・お金を「投資」することができるかどうかにかかっています。「LOCAL GOOD FUKUOKA」では、地域に住み・暮らす住民や企業、NPO法人などの民間主体が中心となって、顔の見える関係を大切にしながら、ネットを活用し、課題の見える化、解決に向けたディスカッションやプロジェクト化、クラウドファンディングによる資金の収集という循環をつくっていくことを目指し、地域をよくする活動「地域のGOOD=ステキないいコト」に多くの主体が参加するきっかけをつくっています。

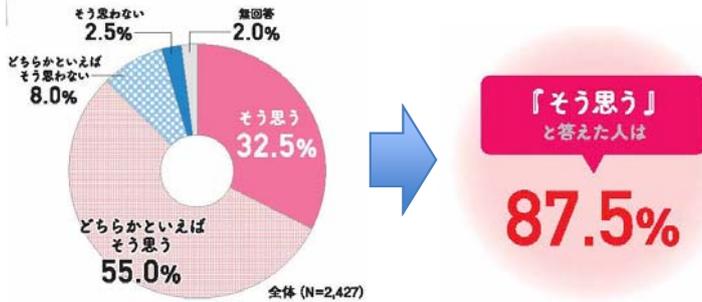
特に「①ネットを活用した地域活動の実績」では、主導はNPOやコミュニティでしたが、行政のサポートがあったからこそ実現した事業であり、今回の福岡市との共働においても、リアルな課題を持つだけでなく、様々なノウハウや知識を持つコミュニティや団体の紹介、連携の支援などを担ってもらえる重要性を理解しています。

また、福岡市では、「地域のまち・絆づくり検討委員会」からの提言にあるように様々な主体（企業、事業者、NPO、学校、行政、各種団体等）がそれぞれの知恵やノウハウを持ち寄り、補完、連携し合う状況を目指していることから、リアルな連携とAIPが得意とするネットの活用によって、新たに「地域課題（活動）」に関心がある人を増やすことができると考えます。

市担当課はなぜこの事業に取り組むことにしたのか

【平成28年度 市政に関する意識調査(抜粋)】

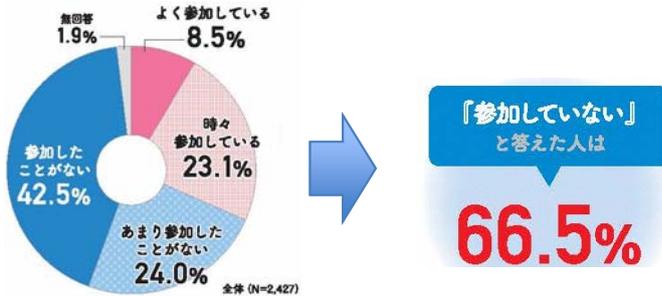
☆地域活動は大切だと思いますか



活動に参加しなかった理由は何ですか？



☆過去2年間において、地域活動に参加したことがありますか？



地域活動を大切だと思っている人が9割近くいるのに対して、実際に参加している人は3割程度。

参加していない理由としては、「仕事で時間が取れない」「参加できる時間と活動が行われている時間が合わない」などとなっている。

このように、地域活動に参加したいと思っている人が潜在的にいると考えられるため、このプロジェクトを通じて、時間や場所などの制限なく地域と関わられるようになれば、地域に目を向けてもらえるようになり、地域活動の担い手不足や参加者の減少といった課題を解消していく糸口(きっかけ)になっていくのではないかと考えた。

(2)事業の目的

『リアルとネットの融合』

リアルな場だけでなく時間や場所を選ばないインターネットを活用し、ネット上でも身の回りの課題について話し合うことで、人任せにするのではなく、自身で考えて行動する“自分ゴト化”する人を増やし、普通に住んでいる人の地域に対する感度のアップ。

地域課題へ取組む参加者の裾野を広げ、「解決したいと思っているのは自分だけじゃないんだ!」「みんなで解決出来るんだ!」「挑戦してみよう!」という共感、共鳴、共創による課題解決ができる地域(世界)を目指す。

また、こうして自分ごと化して地域課題に取り組む人に対してフォローする機会を作り、問題解決をサポートする。

### (3)事業の目標

#### ①目指す事業成果（当初）

ITを活用し、ネット上への課題投稿数、ネット上でのディスカッション(スレッド)数を増やすことで「リアルとネットの融合」を図り、リアルでのワークショップだけではなく、ネット上で繋がり、ディスカッションすることで、地域に関心のある人をより多く巻き込みながら、自らが住む地域について考える人を増やしていく。

また、実際に身の周りの地域課題を知り、事例から課題への解決方法を考えたりする機会をつくることにより、課題解決に向けたプロジェクトチームの創出を目指す。

#### ②目指す事業成果（中間評価を受けての対応協議：10/30）

【今年度中に達成すべき到達点を確認】

- ・LOCAL GOOD FUKUOKAサイトでの地域課題に関するディスカッションの方法がわかりづらく、十分に機能していないため、2月上旬を目途にシステム改修を実施する。
- ・「既存のシステムでは難しいがやらないといけない」との意識を持っており、LGで投稿された課題をFBに転記してコメントを促すなど、ディスカッションが活性化する方法を試していく。
- ・年度末までにアイデアソン事業を実施し、2件のプロジェクト化を目指す。
- ・成果について、投稿数やディスカッション数の目標達成は難しいが、アイデアソン参加者数（50人）、プロジェクト数（4→2へ変更）を目指していく。

#### ③成果指標（目標値と現状値）※平成29年度実績

成果指標	現状値	目標値
1. ネット上への投稿数	101	約1,000
2. ネット上でのディスカッション(スレッド)数	35	約300
3. 課題の見える化&解決勉強会参加者数	29人	約50人
4. 課題解決アイデアソン参加者数	54人	約50人
5. 課題解決に向けたプロジェクトやチーム数	0	4プロジェクト (チーム)

## (4)事業の内容

### 1. ネット上での場づくり事業

#### ○事業内容

目標：課題解決のリアルな場に参加できない、共感してもらえない人に出会えない人も参加できる場づくり

成果：ネット上で参加、ディスカッションできる場をつくる

対象：課題解決のリアルな場に参加できない、共感してもらえない人

内容：現在使用しているネット上のサービスでは、課題を投稿することはできるが、個々の課題などについてディスカッションはできない状況である。現在のサービスにディスカッションができる機能を追加開発、又は同役割を果たすネット上のサービスを活用して準備する。

準備しただけでは、使い方を知らない人、何を投稿したら良いかわからない人が多いと思われるので、コミュニティマネージャーを設置し、使い方を周知し、投稿された課題が放置されたままにならないように他の参加者の発言を促したり、話の流れを整理したり、参加者の認識の一致を確認したりすることで、ディスカッションの活性化を図る。

実施日程：2017/04～2018/03

ネット上への投稿数：約1,000

ネット上でのディスカッション(スレッド)数：約300

#### ○実施状況

福岡市政だよりへの掲載や、西日本新聞の推薦によるLOCAL GOOD FUKUOKAの地域創生大賞の受賞、LOCAL GOOD STATIONへのNHKからの取材など、各々のネットワークを活用し、事業の認知度があがった。

LGFサイト上に当初はFacebook(以下FB)アカウントでコメントできる機能を追加し、コミュニティマネージャーがサイトやFBグループ上で投稿された課題に対するディスカッションを促した。また、毎月第一火曜日に開催しているLOCAL GOOD STATION等でLGFサイトの周知や投稿・ディスカッション方法の説明を行っていたが、FBアカウントを必要とするディスカッションはハードルが高く、途中で離脱する人も多く見られ、思った以上に投稿数やディスカッション(スレッド)数が増加していなかった。そのため、LGFサイトでの投稿・ディスカッションの方法について検討を行い、FBアカウントなしで誰でもディスカッションに参加できるようにするなど、様々なシステムの改変を2月末までに実施した。

実施：2017/04～2018/03/31

ネット上への投稿数：101

ネット上でのディスカッション(スレッド)数：35

## ○システム改変（AIPにおいて実施）

以下のようにシステム改変の仕様を検討し、1月末、2月末に順次実施を行った。

### ■12月中旬まで

- LOCAL GOOD内部調整
- システム変更の仕様検討・決定

### ■1月末公開

- トップページに最新の投稿をいくつか表示  
→常に変化があるトップページにすることでユーザーの訪問を促す
- トップページから投稿一覧までダイレクトボタンを設置
- スマホの投稿一覧で投稿内容を表示
- 住所や施設名などで検索し、場所を指定
- 投稿時に必要な場所の指定をしなくても投稿可  
→場所に紐付かない活動なども投稿できるように促す

### ■2月末公開

- FBなどにログインしなくてもディスカッションに参加できるよう変更  
→アイデアや意見等をネット上でもしやすくし、投稿を促す
- 投稿時に写真も添付可  
→投稿内容を写真で伝えやすくし、投稿を促す
- 強化月間のようなイメージで“今月のテーマ”等を表示
- “そうだ!”“ですよね!”などの共感ボタンの設置  
→投稿者への共感による投稿のリピートを促す。仲間を見つける。
- 投稿を促す説明文の追加

## ○平成29年度(後期)の活動について

システムの改変を行いながら、後期は以下の活動を行うことで、ネット上への投稿、ディスカッションの活性化を図った。

### ① テーマを設ける・絞る

幅が広すぎても、何を投稿していいのかわからず、投稿しづらくなる考え、テーマを設けた。投稿を増やすために、システム改変に合わせて、テーマを「みんなで作るコミュニティスペース」に絞って投稿を促すとともに、そのテーマに併せて、課題解決アイデアソン事業（2/6～3/18の期間で4回シリーズ）を実施した。

### ② 指名制

ネット上でアイデアをもらいたい時、リアルの場で実施しているLGSのように「○○さんどう思いますか？」など指名して答えてもらう。

実際に声かけしたところ本人からのコメントや、指名された方以外からも反応がありネット上のディスカッションへの参加につながった。

## 2. 課題の見える化&解決勉強会事業

### ○事業内容

目標：ネットへの投稿、ディスカッションを知ってもらう

課題を見つけ、自分ゴト化するだけでなく、課題解決に向けた進め方等を学ぶ

成果：リアルな場に参加できなくても、ネット上で参加できる人が増える

身の周りの課題を知り、事例から課題への解決方法、進め方を考える

対象：地域に関心はあるけど自分ゴト化できていない人、自分ゴト化して課題に対して取り組んでいる人

内容：地域を歩き回るフィールドワークを実施し、既に自分ゴト化している人、自分ゴト化までは至っていないが関心のある人が実際に顔を合わせるリアルな場をつくる。参加者同士と一緒に身の回り(地域)にある課題を知り、コミュニケーションを取り、つながる機会をつくる。また、ネットへの投稿を知ってもらうために、見つけた課題をネット上へ投稿し、課題の見える化やディスカッションを促す。

同時に実践者をゲストとして招き登壇してもらうことで、事例を学び自分が直面している、またはこれから直面する課題の解決に活かしてもらう。

### ○実施概要

テーマ：警固の街を撮る ～好いところ、好かんところ～

日時：平成29年9月10日（参加者：29名）

場所：警固公民館3階講堂・警固校区周辺

ゲスト：写真家・株式会社アルバス代表 酒井咲帆氏  
 ブLOGGER & webデザイナー Bene (ベネ) 氏

内容：ゲスト講話

フィールドワーク（警固の街の写真を撮る）

ディスカッション（撮ってきた写真を見ながらディスカッション）



警固校区に住む親子連れや、市内の他の校区在住の方も含めて29名の参加があった。

公民館での開催により、これまでのLGFの活動でリーチできなかった主婦層や子ども層の参加に繋がるとともに、普段の生活では考える事がほとんどない地域のことについて、カメラのレンズを通して、違う視点で捉えることができた。

新しい「発見」が参加者の皆さんにとって、街に対するアクションへの第一歩へ繋がった。

### ○事業の成果（参加者から出た課題・アイデア等）

- 課題：警固境界は落書きが多く困っている

→アイデア：思いっきり落書きしていい場所を提供する

落書きの上にアートを描き、気が引けて落書きできないようにする

- 課題：放置された空き家

→アイデア：中の様子がわかりやすいように手入れして、空き家を上手く活用する

- 課題：歩道にゴミがはみ出している

→アイデア：置き場を確保する

- 課題：フェンスで囲まれた行き止まり

→アイデア：整備・解放して公演にしたらどうか

- 課題：歩道が狭く危険な道

→アイデア：特区申請し住民以外の車の乗り入れを禁止してはどうか

○当日の様子



### 3. 課題解決アイデアソン事業

○事業内容

目標：実際に行動へ移し、解決へと結びつける

成果：課題解決に向けたプロジェクトチームができる

対象：地域課題に関心はあるが、実際に行動できていない人

内容：ネット上に投稿された課題やディスカッションを振り返ったり、解析したりして解決策を考えるワークショップ(アイデアソン)を行う。地域課題の解決に関心がある企業、技術者なども巻き込み、解決の具体化と更なる自分ゴト化の裾野の拡大を行う。

○実施概要

テーマ：「みんなでつくるコミュニティスペース」として、全4回のイベントを実施。

- ① 2月 6日(火)19:00～ LOCAL GOOD STATION@福岡市スタートアップカフェ
- ② 2月17日(土)13:00～ イベント開催@HOOD天神
- ③ 3月 6日(火)19:00～ LOCAL GOOD STATION@福岡市スタートアップカフェ
- ④ 3月18日(日)13:00～ イベント開催@福岡市スタートアップカフェ

①みんなでつくるコミュニティスペース～ゆるく繋がれる場を自分たちでつくってみよう！

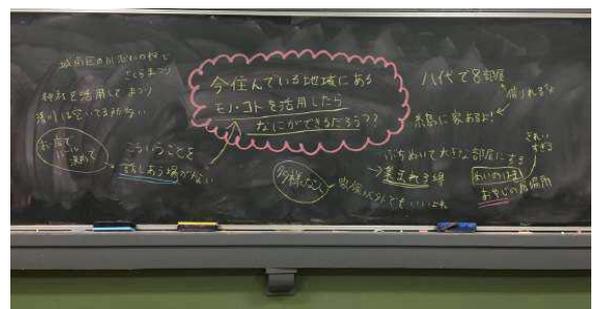
日 時：平成30年2月6日（参加者：14名）

場 所：スタートアップカフェ

ゲスト：株式会社 樋井川村 代表取締役 村長 吉浦隆紀氏

内 容：もし住んでいる地域の空き家を活用したら何ができるだろう？ということを考える

既にコミュニティスペース(長尾コミュニティスポットわくわく)を運営している方、空き家を持っていて活用して欲しい方なども参加いただき、吉浦氏が取り組まれた”上長尾テラス”を参考にして、活用したら何ができるだろうかということに参加者同士のディスカッション等も行いながら具体的に考えることができた。



②みんなでつくるコミュニティスペース～ゆるく繋がれる場を自分たちでつくってみよう！

日 時：平成30年2月17日（参加者：6名）

場 所：HOOD天神

ゲスト：株式会社ユナイトヴィジョンズ 遠矢弘毅氏  
株式会社チャウス 宮本吾一氏

内 容：実際にどの地域のどんな場所で活動するのかを決めて、「みんなでつくるコミュニティスペースで実際になにができるか具体的なアイデアを出し合おう！」ということを実践的に考えてみる

実際にいくつもコミュニティスペースを運営されている両ゲストからスペースの活用法や継続などに関するポイントを聞き、前回のイベントに参加されていた長尾コミュニティスペースポットわくわくを運営されている方、空き家を持っていて活用して欲しい方を中心に、どんな活動ができるかを考えることができた。



③みんなでつくるコミュニティスペース～ゆるく繋がれる場を自分たちでつくってみよう！

日 時：平成30年3月6日（参加者：20名）

場 所：スタートアップカフェ福岡

ゲスト：西南学院大学経済学部 教授 小出秀雄氏  
NGO Peach Other 代表 小池 英智氏

内 容：商店街の空き店舗にスポットをあてて、もっと具体的に場の活用方法について考えてみるだけではなく、具体的なコミュニティスペースとして「長尾コミュニティスポット わくわく」に焦点をあて活用を考えてみた。

「長尾コミュニティスポット わくわく」が持つ「思ったように活用されていない」という課題に対して、LOCAL GOOD FUKUOKAのネット上に集まったアイデアや意見なども参考にしながら、ディスカッションの内容を深めることができた。



④みんなでつくるコミュニティスペース～ゆるく繋がれる場を自分たちでつくってみよう！

日 時：平成30年3月18日（参加者：16名）

場 所：スタートアップカフェ福岡

ゲスト：株式会社グランドレベル 代表取締役 たなかもとこ氏  
クリエイティブディレクター/編集者 大西正紀氏

宮崎国際大学教育学部児童教育学科 准教授 山下智也氏

内 容：具体的なコミュニティスペースとして「長尾コミュニティスポット わくわく」に更に焦点をあて「まず地域の人に知ってもらうには？」といった点等についてアイデアを出し合った。

事業開始当時は誰にも理解されない、場もない、ツールもないといった0(ゼロ)から場作りを始めた二組に登壇いただいた。アイデアと気持ちで場作りを行っていった事例を聞き、ほとんど活用されていないという課題を持つコミュニティスペース「長尾コミュニティスポット わくわく(以下、わくわく)」の活用方法について、参加された方々とディスカッションを行った。参加者の中に長尾で地域活動を行われている方がいて、イベント後わくわくでの活動に繋がっていった。

○事業の成果（参加者から出た課題・アイデア等）

- 課題：今住んでいる地域にあるモノ・コトを活用するための話し合う場がない  
→アイデア：お店などでルールを決めてディスカッションできる場をつくる
- 課題：地域での関係づくりが難しい  
→アイデア：昔から暮らしている人と若い人・新しい人の考えの差を縮めていくことから関係づくりを行う。押し付けではなく相手を尊重する。  
地域の方と繋がっているキーパーソンを見つけ、繋げてもらう。
- 課題：コミュニティスペースの地域での周知がうまくいかない  
→アイデア：マーケティングが大事。地域のニーズを調べてそれにマッチしそうなカタチでSNS等で情報発信する。
- 課題：地元の人が大切に守っている神社があるが、活用されていない  
→アイデア：地域の祭り等を開催したら地域の人ともっと交流できるのでは。



(5) N P O と市の役割分担

以下のように役割を分担して取り組んでいる

担当	内容
LOCAL GOOD FUKUOKA	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ネット活用に関する企画、開発マネジメント</li> <li>• コミュニティマネージャーの発掘、育成</li> <li>• コミュニティマネージャーとのネット活用の教育、周知</li> <li>• イベントの企画、福岡市との調整、ゲストの調整、運営、集客</li> <li>• アイデアソンの企画、福岡市との調整、ゲストの調整、運営、集客</li> <li>• 福岡市が進めている施策等との連携、調整</li> <li>• 他部署との連携・調整</li> </ul>
福岡市	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 現在進めている施策等との連携、調整</li> <li>• 福岡市の既存制度に関する情報提供</li> <li>• 事業を進めていくうえで必要となる他部署との連携・調整、関係機関の調整</li> <li>• 信頼</li> <li>• 場の提供、事業の告知など</li> </ul>

## (6)担当者の声・市民の声

### 1. 担当者の声

(良かった点)

- 9月10日に実施した公民館でのイベントの参加者は、日頃地域活動に参加していない人がほとんどであった。テーマの選定により、地域に関わるきっかけを提供することができた。
- イベント開催により、地域の課題や課題解決に向けた新たな切り口を参加者から見つけられることがあった。
- 課題の投稿システムにより、潜在的な課題が多くあることが分かった。

(課題・問題点)

- 共働事業の目的を、HP閲覧者やイベントの参加者に十分に伝えきれなかった。
- システム改修が年度末になり、目標としていた投稿やディスカッションの活性化ができなかった。
- 投稿された課題が、当事業のテーマとなり得る地域課題が少なく、社会的課題などが多かった。
- イベントの参加者を定着させることができず、多くの参加者毎回変わるので、イベントが単発的な感じになり、チーム作りが難しいと感じた。
- ネット上でのディスカッション参加者やイベント参加者による地域課題解決に向けたプロジェクトチームを創出するための仕組みが作れなかった。
- プロジェクトチームができた場合でも、既存の自治協議会、自治会・町内会との連携・協力をどうやって進めていくかが難しい。
- 市担当課とNPOとで「地域」の捉え方に違いがあった（市担当課は基本自治協議会や自治会・町内会レベルだが、AIPは福岡市などもっと広い範囲でも可）。

### 2. 市民の声

#### ■9/10参加者の感想(一部抜粋)

- 写真をからめて、地域のことを考える、今回のようなものだとすごく楽しくて考えやすかったです。今後もあれば参加したいと思いました
- 警固だけでなく他の地区でもやるといいと思います
- 地域密着。これからの街づくりに大事な事だと思いました。知人にも参加の呼び掛けをしたいと思います
- いつもきれいだなーと思いながら撮ることが多くてテーマを持って撮ることが少ないのでチャレンジできてよかったです
- 新しい発見ができました。視点が少し変わりました
- 子供達が自主的に動いている姿を見られただけで満足でした
- 警固校区を歩いて娘と写真を撮ることが出来、他の方々ともお話しが出来て楽しかったです

#### ■警固公民館からの感想

公民館長、公民館主事からの感想。今後の共催に対しても前向きな意見をいただいた。

## 2. 市民の声(続き)

館長：とても楽しく、有意義な1日でした。参加者も、人数・世代共にいい感じでした。大人から子どもまで、様々な意見が聞けてよかったです。普段から地域に関わっている方々は、どうしても見方が一元的になってしまうので、地域（自治協議会関係者は特に）にも聞いてもらいたい気がします。

公民館的としては、いかにして公民館デビュー（地域デビューの前段として）してもらうか、が大きな課題ですので、新しいイベントは大歓迎です。警固公民館に来たことがない方も多く、今回のイベントをきっかけに、公民館や地域に興味関心を持っていただければと思います。今後もAIPさんと一緒にやれる事業があるといいですね。

主事：楽しく参加できました。時間が長いと思っていましたが、あっという間で充実した時間でした。子どもと一緒に活動できたのが良かったです。（子どもたちの発想が新鮮でした！）グループワークで皆さんと仲良くなれたのも良かったと思います。

### ■2/6参加者の感想(一部抜粋)

- DIY・リノベーションからコミュニティ・つながりづくりまで一連の動きが実現できているのがすごいと思いました。
- 色んな人のおもしろい話がきけました。
- 寒い中得るものが多かったです。
- とにかく面白かったです。吉浦さんのお話しに何度もうなずかされました。
- とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。
- 有意義な時間になりました。
- うわさに聞いていた樋井川村の活動を知ることができ、大変勉強になりました。上長尾テラス行ってみます。
- いろいろなヒントを頂きました。ありがとうございました。
- リノベーションによるコミュニティのでき方、つくり方の実際がきけてためになった。
- 様々な場所や職業の方が集まっていてそれぞれの視点での話が聞けて良かった。
- イベント企画運営に長けた方と同じグループだったのですてきなアドバイスをいただきました。ありがとうございました。

### ■2/17参加者の感想(一部抜粋)

- 視野が広がって、考えに幅ができました。
- 具体的な行動する上でのアドバイスをいただいて、参加してよかったです。
- 発表する時間があってよかったいろんな方のはなしがきけてためになった
- 少人数でしたがとても楽しかったです

## 2. 市民の声(続き)

### ■3/6参加者の感想(一部抜粋)

- 他の地域の事例がきけておもしろかったです。
- 感謝。いい出会いがありました。
- 話しをする時間が十分にありました。
- 異業種の方々の意見を聞くことができおもしろかった。
- 視野の広がる話しが聞けてよかったです。
- 今日学生さんや八女で活動されている方のお話を聞いてよい刺激になりました。
- 参加している人それぞれが「自分ごと」を持っていて楽しかった。
- とってもおもしろかったです。さまざまなアイデアをもっている人がいて、人が集まるということの重要性を改めて感じました。

### ■3/18参加者の感想(一部抜粋)

- 北九州からの参加ですが、参加者の皆様が地域のことを考えている姿に感動、北九州での参考にさせていただきます。
- 新しい「日常」をつくるヒントになりました。
- 様々な気づきや学びとご縁をいただくことができました。ありがとうございます。
- 色んな職種の方とお話しできて、たのしい企画でした。何かやりたい人はたくさんいるのに、つながるのが難しいと感じます。
- 楽しかったし知りたいことが知れて、来てよかったです。
- 広い視野で色々な話しがきけて嬉しかったです。
- 共感しきりの1日でした。どのお話しもこれが完成形ではなくこれからどんな展開になるのか、とても楽しかったです。
- 山下さんのお話しが聞きたくて参加しました。他の方のお話しも刺激になりました。楽しく、元気をもらえました。

## (7)平成30年度への展開

### <共働事業終了>

平成29年度事業実施の結果、ネット上での投稿・ディスカッションを活性化しながら、本事業の目標である地域課題解決に向けたプロジェクトチームを創出する仕組みをつくるのが難しく、成果をあげることが現状では難しいと感じた。また、事業の内容としては、NPO単独でも実施可能であるため、共働事業は終了する。

### 【A I Pの30年度の取組み】

社会の情勢やタイミングなども考慮し、今後、事業の継続を含めて検討していく予定。

### 【福岡市コミュニティ推進課の30年度の取組み】

A I Pが事業を継続して実施する場合、広報や地域との連携の場面等でサポートを行う。